

- 賀茂地域のハウスみかんは、高齢化や後継者不足により生産量・販売額の低下が危惧されているが、設備費が高額で初期費用の回収まで年数が長いたため規模拡大が進まない。
- このため賀茂農林事務所では、大分県が開発した「**垣根仕立て栽培**」の導入を推進するとともに、若手生産者の技術向上と意識改革に向けた勉強会を開催した。
- その結果、**作業時間は25%縮減**され、**収量は定植6年目で産地平均を上回り、8年目で累積収支がプラス**に転じることが明らかとなった。

具体的な成果

- 1 「垣根仕立て栽培」の検証とマニュアル作成
 - 検証結果
収量：定植6年目（6 t / 10a）で産地平均を上回る。
作業時間：慣行栽培に対し25%短縮。
 - 収益性試算
定植8年目で累積収支がプラスをなることが明らかとなった。

ハウス新設に伴う経営収支の推移（試算）

年	生産量 (t)	①収入 (千円)	②種苗費 (千円)	③生産経費 (千円)	④出荷経費 (千円)	⑤単年度収益 (千円)	累積収支 (千円)
1	0	0	25	2,479	0	-2,504	-2,504
2	0	0	25	2,479	0	-2,504	-5,008
3	0	0	25	2,479	0	-2,504	-7,512
4	3	2,948	25	3,691	455	-1,223	-8,735
5	6	5,897	25	3,691	910	1,271	-7,464
6	7	6,880	25	3,691	1,061	2,103	-5,361
7	10	9,828	25	3,691	1,516	4,596	-765
8	10	9,828	25	3,691	1,516	4,596	3,831
20	10	9,828	25	3,691	1,516	4,234	58,983

- マニュアル作成
収量の増加や収益性、作業時間の短縮についてまとめたマニュアルを作成。

- 2 園地改植の意向把握
 - 改植が必要であると考えているハウスが、22棟中8棟（5名）あることを把握。

- 3 若手生産者の技術向上と意識改革
 - 温度管理への意識が向上し、基準値に沿った加温管理を実施。
 - 秀品率が低いハウスについて、温度管理等の新たな課題を見出。

普及指導員の活動

令和2年～継続

- 「垣根仕立て栽培」の検証及びマニュアルを作成し、「**垣根仕立て栽培**」の導入メ
リットを検討・周知することで生産者への技術導入支援を実施した。

令和3年

- 園地改植の意向把握により、「垣根仕立て栽培」の導入を検討している生産者への技術の提案を行った。

令和2年～継続

- 勉強会を通じて、若手生産者の技術向上と意識改革を行い、「垣根仕立て栽培」を活用した規模拡大への意識醸成を図った。



普及指導員だからできたこと

- ・大分県で開発された「垣根仕立て栽培」技術を、JA、先進農家と連携し、**現地モデルほ場で検証しマニュアルを作成**することができた。
- ・若手生産者やJA等の**関係機関を結びつけ**、定期的に検討会を開催することで、収益性の試算結果や規模拡大の阻害要因の解消を**共通の課題として取組**むことができた。

静岡県

園芸作物産地の永続的な発展支援

～ハウスみかんの垣根仕立て栽培等による生産振興の取り組み～

活動期間：令和2年度～（継続中）

1. 取組の背景

ハウスみかんは東伊豆町が発祥の地であり*、賀茂農林事務所管内では、東伊豆町及び河津町を中心に栽培されている。旧伊豆太陽農業協同組合の果樹売上約45%を占め主力品目の一つであり、県内の他産地よりも高い販売単価で取引されている。

生産者の高齢化や後継者不在に伴う担い手不足により、生産量・販売額の低下が危惧されていることから、令和元年度に若手生産者を対象に地域戦略と個別経営計画の策定を支援したところ、技術への関心は高いものの、規模拡大を志向するには至っていないことが明らかとなった。

こうした中、平成29年度、大分県が開発した省力的で高収量が期待できる「垣根仕立て栽培」が、管内1園地に導入され、規模拡大を阻害する要因を解消できる技術として注目されている。

*昭和41年、東伊豆町において温泉熱利用のハウスみかん栽培がはじまる。

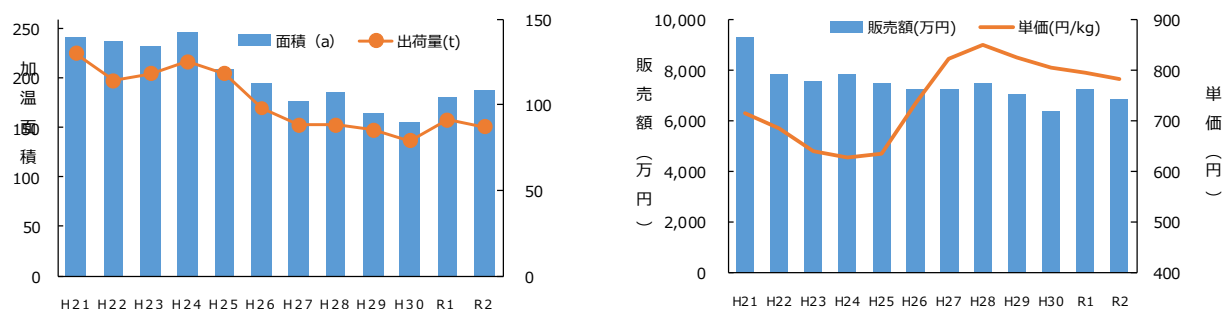


図1 旧JA伊豆太陽ハウスみかん部会の出荷量と加温面積(左)販売額と単価の推移(右)

2. 活動内容（詳細）

(1) 「10t どり新技術「垣根仕立て栽培」の導入促進」

ア 「垣根仕立て栽培」の検証及びマニュアル作成

- ・検証に向けたデータ収集（R元-R3までの収穫量及び収穫、枝つり、剪定にかかる作業時間）
- ・収益性の試算
- ・マニュアル作成にむけた検討（ハウスみかん部会及び若手勉強会）

イ 園地改植の意向の把握

- ・アンケート調査により、改植が必要な園地のリストアップ及び改植予定の有無(10戸22棟)

(2) 「勉強会を通じた若手生産者の技術向上と意識改革」

ア 栽培管理に対する意識変化

技術力向上により、産地の中核となる若手生産者の規模拡大の意欲を高めることを目的に、収量や品質向上につながる栽培管理の見直しを行い、生産者間の技術データの可視化を支援する。

<令和2年度>

- ・栽培技術の底上げのための勉強会の開催(R2～)
- ・栽培管理実態の把握(R2)
- ・JAの温度管理基準をふまえた、細かな温度管理の徹底の提案(R2～)

<令和3年度>

- ・生産者の温度管理状況、収量及び品質のデータ収集の実施
- ・生産者間の技術データの比較検討による課題の把握



3. 具体的な成果（詳細）

(1) 10t どり新技术「垣根仕立て栽培」の導入促進

ア 「垣根仕立て栽培」の検証及びマニュアル作成

- ・収量は定植6年目(6t/10a)でJA伊豆太陽の平均(5t/10a)を上回り(図2)、作業時間(図3)は慣行栽培に比べ、全体で25%短縮されることを明らかとなった。
- ・収益は、6t収穫の場合、慣行ハウス栽培の2.8倍、10tの場合10倍となり、ハウスを新設しても定植8年目で累積黒字となり、規模拡大や新規参入がしやすいことを明らかにした(図4)。
- ・「垣根仕立て栽培」による収量の増加や作業時間の短縮、収益の優位性や想定される導入形態についてまとめたマニュアルを作成した。

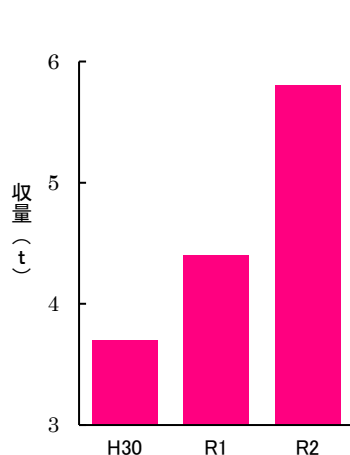


図2 収穫開始以降の収量の推移

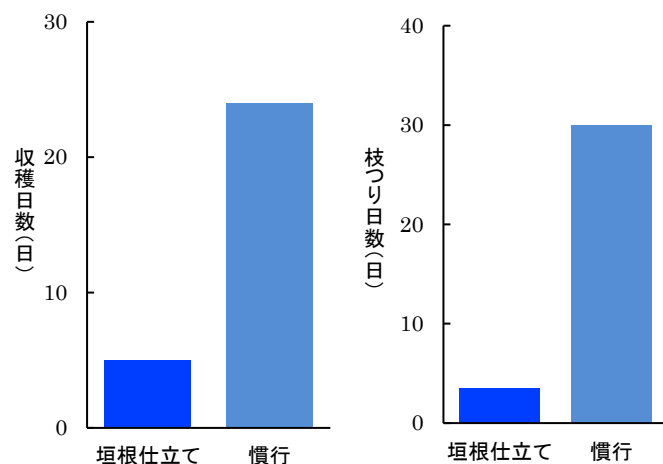


図3 収穫3年目の収穫日数(左)と枝つり日数

年	生産量 (t)	①収入 (千円)	②種苗費 (千円)	③生産経費 (千円)	④出荷経費 (千円)	⑤単年度収益 (千円)	累積収支 (千円)
1	0	0	25	2,479	0	-2,504	-2,504
2	0	0	25	2,479	0	-2,504	-5,008
3	0	0	25	2,479	0	-2,504	-7,512
4	3	2,948	25	3,691	455	-1,223	-8,735
5	6	5,897	25	3,691	910	1,271	-7,464
6	7	6,880	25	3,691	1,061	2,103	-5,361
7	10	9,828	25	3,691	1,516	4,596	-765
8	10	9,828	25	3,691	1,516	4,596	3,831
20	10	9,828	25	3,691	1,516	4,234	58,983

図4 ハウス新設に伴う経営収支の推移(試算)

イ 園地改植の意向の把握

- ・樹勢の低下等により改植が必要と考えているハウスが、22棟中8棟(5名)あることが把握できた。

(2) 「勉強会を通じた若手生産者の技術向上と意識改革」

- ・加温開始以降の温度管理の意識が高まり、基準値に沿った加温管理が実施された。
- ・秀品率が低いハウスでは、4月以降に高温となっていることが新たな課題として見出された。

4. 農家等からの評価・コメント(東伊豆町A氏)

垣根仕立て栽培を行ったことで、摘果や剪定、収穫といった作業が従来よりも少ない時間でできるようになった。果実の着色も日当たりが良くなったので、従来よりも紅が強い果実になった印象を持った。今後はハウスの温度に着目して果実の着色のムラがなくなるようにしたい。

5. 普及指導員のコメント(賀茂農林事務所地域振興課主任 前田未野里)

垣根仕立て栽培と従来の栽培方法を比較することで、垣根仕立て栽培の有意性を数値化して示すことができた。この結果は若手生産者やJA等の関係機関の協力がなければ実現できなかったことであり、改めて普及指導員のコーディネート機能の発揮が重要であると感じた。今後も若手生産者および関係機関と連携してマニュアルを活用しながら、垣根仕立て栽培の普及に努めたい。

6. 現状・今後の展開等

マニュアルを用いた研修会の開催や栽培研究会の立ち上げ等を通じて「垣根仕立て栽培」の優位性の周知や技術導入を支援し、生産量増加、新規参入の促進や生産者の規模拡大を実現し、産地の発展につなげる。